

国際フロンティア産業メッセ 2013 に参加しました

北村 眞一

1. 展示会概要

「BE COOL-BE SMART 兵庫・神戸から広がるものづくり」をテーマに、兵庫・神戸から産業の創出を発信する「国際フロンティア産業メッセ 2013」が9月5日(木)・6日(金)に神戸国際展示場1・2号館(神戸ポートアイランド)で開催され、当会も産学連携・支援機関として参加した。

「ひょうご環境ビジネス展」「みなと元気メッセ 2013」「こうべしんきんビジネスメッセ 2013」「たんぎん産業メッセ 2013」が併設された。

過去最大級の規模となった今回は、環境・エネルギー、情報通信・エレクトロニクス、ロボット、材料・製造技術、医療・健康、生活関連、産学連携・支援機関、東日本大震災復興支援に向けての被災地企業支援コーナーを設置し、併設展示会も含め320社・団体の355小間が出展され、24,266人が来場された。基調講演、特別講演、各種セミナーなど多彩なイベントや商談マッチングの場が設定され、ビジネスチャンスの拡大と、産学官の技術・情報交流の場となった。

当会は、活動内容を紹介するパネルの展示と技術相談コーナーを設け、当会をアピールすると共に技術相談に応じた。



2. 展示会の動向

「神戸からアジアへ!アジアから神戸へ!」をテーマにして、神戸市アジア進出支援センター・アドバイザー等総勢20名で、アジアへのビジネス展開におけるリスク軽減セミナーや個別相談会が開催された。2007年2010年2013年の出展状況を見てみると、規模は大きくなっているが、「国際」と冠に謳う割には海外からの出展が減少している。神戸からアジアへは関心が有っても、果たしてアジアから神戸に関心は有るか少し心配になった。

神戸近辺以外の参加企業は、2007年「東播磨ものづくり元気企業ゾーン」、2010年「地場産業ゾーン」、2013年は「地域振興・地場産業」特別企画「東北復興支援」と国内への広がりを感じられる。

併設展示会は金融機関主催が増えている。2013年は3金融機関が展示会を開催しており、いずれもビジネスマッチングを模索しているようだ。

開催年	出展社数	併設展示会数	併設展示会出展社数	出展社合計	海外からの出展
2007	128	2 (1)	67	195	6 (中国)
2010	157	3 (2)	49	206	4 (中国・香港・ドバイ・スイス)
2013	264	4 (3)	56	320	1 (中国)

併設展示会数カッコ書きは金融機関主催数を示す

出展者アンケートをしてみる。本展示会に出展を決めた理由は何か?の問いに対して、1位は兵庫・神戸地域の新規市場開拓のため(28.0%)となっている。本展示会の出展目的は何か?の問いに対して1位は取引先の開拓(26.6%)となっている。ちなみに2位は企業の知名度アップ・イメージ向上(23.5%)。3位は新製品・新技術の周知(17.4%)である。

本メッセは先端技術の総合見本市を目指しているが、出展者にとっては新技術の発表より、如何に売り先を見つけるかの方が重要な課題なのだろう。

3. 今後の展望

就活、婚活などの新しい出会いを求める活動が、若い人にとっては大きな関心事になっているようだ。善し悪しは別にして、昔はそれなりの触媒があったのだろう(指定校制度、指導教授の推薦、コネ、お見合い、上司や親戚、近所のお節介なおばさんの紹介、親が決めた等)。触媒は有意情報のネットワークと置き換えてもよい。企業にとっての「売活?」は昔からの究極の課題である。展示会は、如何に有意義な触媒になれるか、情報と情報をうまく繋げることが出来るか、が今後の課題になるだろう。当技術士会も優秀な触媒になる可能性は大いにある(たよりになるお節介なおじさん?に)。